

南空知地区 新規就農者紹介



【就農のきっかけ】

実家が農家（由仁町）であり、子どもの頃から将来は、農業に携わりたいと考えていました。高校卒業当時の経営面積は約5haと小規模で、父親から「農業だけで家族を養うことは難しい」と助言があり、陸上自衛隊へ入隊しました。

当初は大型特殊免許などを取得した後、数年で就農する考えでしたが、結婚や子育てなど家庭環境の変化もあり、自衛官としての勤務を続けることになりました。それでも農業への思いは変わらず、単身赴任中も含め、週末には帰省し、農作業を手伝いながら農業との関わり続けました。

父親の逝去後は私が定年を迎えるまでの数年間、妻が経営を引き継ぎ、農業経営を支えてきました。

2024年、定年退職を機に妻から経営を引き継ぐ形で就農しました。現在は25haほどの農地で営農をしています。

2026年8月取材

西潟 竜一さん（由仁町）

就農年：2024年4月

経営形態：土地利用型農業

作物：水稻・小麦・大豆・かぼちゃ

【就農して良かったこと】

農業の魅力は、日々の努力が結果として目に見え、形として表れることです。毎日の管理や作業を丁寧に行えば、その成果が収量や品質に反映されます。逆に、手を抜くと影響も結果として返ってきます。農作業に対する責任の重さややりがいを感じています。

また、毎日のように新しい知識や技術を学び、それを実践に活かしていくことも農業の面白さの一つだと感じています。

【就農して苦勞したこと】

農業資材の価格の高さに驚きました。農薬や肥料、農業機械など、自衛官時代には気にしていなかった経営コストの高さも日々実感しています。農薬1本が2万円することにも衝撃を受けました。

また、作業中の焦りから農業機械を建物に接触させ、修理費用が発生した経験もあります。安全に作業するためには余裕を持った行動が重要であることを改めて学びました。



【水稻の生育状況を確認する西潟さん】

【エ夫している点】

水稻については、移植栽培、乾田直播、湛水直播の3つの栽培方法に取り組んでいます。今後は体力や作業人員の状況を踏まえながら作付割合を見直していく考えですが、作業負担の軽減を図るため、乾田直播や湛水直播の割合を高めることを検討しています。特に乾田直播は今年から取り組み始めた栽培方法であり、試行錯誤を重ねながら技術の確立を進めています。

【整備した休憩所】



働きやすい職場環境づくりにも力を入れています。パートスタッフには女性もいることから、女性用トイレや休憩所を整備し、継続して働いてもらえる環境づくりを進めています。さらに、単に作業を依頼するだけではなく、「なぜその作業が必要なのか」「どのような結果につながるのか」を丁寧に説明することで、作業への理解ややりがいにつながっています。

【地域との関わり合いの重要性】

父親から直接技術を学ぶ機会が少なかったことから、近隣農家や関係機関とのつながりは欠かせないものとなっています。

周辺農家のほ場を見ること自体が学びとなっており、除草管理などの技術面でも多くの刺激を受けています。

また、地域のスキー教室で子どもたちへの指導を行うなど地域貢献活動にも取り組んでおり、地域の先輩方との交流を通じて多くのことを学んでいます。

【所有する機械・設備等の状況】



トラクターや収穫機など父親・妻の代から引き継いだ機械を使っています。私が経営を引き継いでからは自動操舵を導入しました。

自衛官時代に大型特殊免許及び大型免許を取得しており、農業機械の操作にもすぐに対応できました。

【今後の展望】

まずは農地を30ha程度まで拡大し、それに伴い、かぼちゃの作付面積を増やしていきたいと考えています。加えて、収益性が期待できるブロッコリーなどの野菜類の導入にも取り組む方針です。現在は、JAの勉強会への参加や近隣農家のほ場見学を通じて栽培技術を学んでいます。

また、将来的には退職自衛官の雇用や法人化も視野に入れています。退職自衛官は機械操作や維持管理、計画立案、実行力など農業に活かせる資質を持っていると考えており、農業との親和性は高いと感じています。

自らの農場を退職自衛官の受入先とするとともに、退職自衛官と地域農業を結び付けるモデルケースとして地域農業の維持・発展に貢献したいと考えています。

【農業への思い】

私は高校卒業後すぐに就農したわけではなく、自衛隊勤務を経て現在に至りました。その中で、人と人とのつながりの大切さを学ぶとともに、東日本大震災や胆振東部地震を経験し、生命の尊さを改めて実感しました。

現在は食を支える仕事に携わることができることに感謝しながら日々農業に取り組んでいます。

今後も微力ではありますが、農業を通じて地域に貢献していきたいと考えています。